

2018年11月27日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【「休むこともできる」が個人投資家の最強の武器】

F X取引を行う時、「材料」によって、  
「買いポジションを建てよう」  
「売りポジションで戦おう」  
と判断している投資家は多いでしょう。

例えば、ドル/円を売買する時に、米国の景気が良いことを示す経済指標が発表されれば、通常は、ドルを買う（ドル/円を買う）という判断をするのではないのでしょうか？

反対に、米国の経済指標で、米景気の悪化を示すような「悪い材料」が出てくれば、通常は、ドルを売る（ドル/円を売る）という判断をするのではないのでしょうか？

しかし、現実には、売りなのか、買いなのかを、判断しやすい材料ばかりが出てくるわけではありません。

ブレグジット（英国のEU離脱問題）は、EUとメイ英国首相の間では、合意案が決まりましたが、この合意案が、英国の議会で承認されるのか、今の時点では、はっきりしません。

イタリアの財政問題も、今後、どうなるのか、不透明です。

このように判断に迷う材料が出てきた時、あるいは相場の方向感が定まらず難しい相場の時には、無理な解釈をしたり、自分の願望を絡めた解釈をして、ポジションを取ってはいけません。

個人投資家が取れる策には「ポジションを持たない」ということもあります。

つまりF X取引から一時撤退することも可能なのです。

「休むこともできる」が個人投資家の最強の武器だ、と考えます。

プロのディーラーであれば（F X市場を職業としているならば）、どんなに難しい相場の時でも、顧客からリクエストのあった通貨を仕事として売買しなければなりません。

しかし、個人投資家は自由です。

取引をする、一休みする、という判断は自分自身で下すことができます。

参加も撤退も自由ということは、プロも同じ立場で参加している外国為替市場において、個人投資家が戦うための最大の武器と言っても良いでしょう。

「相場がわからないときはやらない」

「相場が難しい時は一休みする」

というスタンスを、心に留めておくことが大切だと思っています。

+++++

日本の「勤労感謝の日」と米国の「感謝祭（サンクスギビングデー）」が終わると、毎年、「クリスマス相場」に突入します。

つまり、もうすでに、「クリスマス相場」が始まっています。

「クリスマス相場」に入ったら、あまり無理をしないで、来年に備えた体制で、相場に臨む必要があります。

そのことを念頭に置いて、目先の相場に対応するべき、と、自分に言い聞かせています。

+++++

(2018年11月27日東京時間14:00記述)